

観光ルート上の観光資源に関する考察

国際観光学研究科国際観光学専攻博士後期課程2年

羽田 利久

1. 背景と目的

橋本によれば、「観光対象にいかなる順番で立ち寄り、それらをいかにして印象深くつなぐことができるかを検討することが、トータルとして観光者の体験の質を高めるために肝要となる¹」とあり、観光ルートを類型化し分析することは、観光者へ提示するルートを検討する際に重要な観点となり得る。そして、観光ルートの類型化だけではなく、観光ルートが持つ観光資源の内容について検証を行う事は、今後、観光ルートを策定するうえでの指針の一つとなりえると考ええる。

そこで本稿では、これまでの先行研究を元にして、観光ルート上の観光資源の内容について検証を行う。検証する元データとしては、観光庁が公表している「広域観光周遊ルート」を用いる。「広域観光周遊ルート」は2016年と2019年に観光庁が主体となって、訪日観光客を増加させるために策定されたものであり、その範囲は全国11地域31コースに及ぶ。観光庁という公的な機関が策定したものであるということ、範囲が全国に及ぶことなどの点から、「広域観光周遊ルート」は観光コースとして標準的なものとして考えられるとして研究対象として採択した。

羽田は、「広域観光周遊ルート」を用いて観光行動の移動パターンの類型をおこなっている²が、本稿においては「広域観光周遊ルート」の観光ルート上における観光資源の内容に掘り下げて検証を行い、その要素について検証をおこなう。その点で、既存研究をさらに進めることができる。

その結果として、観光ルート上に存在する観光資源の特徴を見つけ出し、今後の観光ルート策定に寄与することを目的とする。

2. 先行研究

2. 1. 観光資源の定義

観光資源を取り上げた既存の研究においては、まずその前提条件として観光や資源、そし

てそれらに関連する言葉の意味についての確認がなされ、それから観光資源についての定義を定め、その後に分類が行われているものが多い。観光資源は観光を構成する要素として重要であるため、その前提を明確に定義してから議論することが必要とされている。寺前においても、観光学の辞典や教科書では観光資源、観光対象、観光施設に関する記述について、資源はresources、対象はattactions、施設はfacilitiesの英語訳があてられているが、「観光」という基本概念が明確化されない限り、「資源」「対象」「施設」の域を出る解説は期待できないとあり、その用語の使い方については行政における使われ方を考察することが有益であるとしている³。

観光資源の定義についての先行研究は数多くなされているが、その定義は研究者の観光資源の捉え方や表現方法の違いなどにより様々である（表1参照）。これらの先行研究について、高橋はかなり詳細にまとめたうえで、観光資源の定義と分類について考察を行っている⁴。高橋が研究対象としているのは井上萬壽蔵、田中喜一、津田昇、前田勇・橋本俊哉、末武直義、岡本伸之・越塚宗孝、小谷達男、足羽洋保、山村順次、溝尾良隆、香川眞、北川宗忠、須田寛、羽田耕治、日本交通公社の15件である。研究の結果、観光対象と観光資源の定義については、観光対象は観光資源と観光施設（含サービス）から構成されるという考え方と、観光対象に観光施設（含サービス）を含めないという2つの見解があるということを見出している。その結果として、観光資源という用語の定義や観光資源の分類に含める事物の内容、そして観光施設に含める施設の内容については、研究者によって異なると結論付けられている。

表1 観光資源の定義

溝尾	各種の利用可能な資源が、観光対象として顕在化されたもの ヒトを旅行に駆り立てる対象となるのが観光資源であり、山岳・湖沼などの自然資源や、城閣・神社などの人文資源のほかに、遊園地、食、宿泊施設等、あらゆるものが観光資源に成り得る可能性がある
須田	観光の対象、観光行動の目的となるあらゆるもの 自然現象、その派生物、景観(観光)、さらには有形無形を問わず歴史的、伝統的文化財も含めて観光資源となる
尾家	観光システムの中で、観光対象を形成する重要な機能を持った構成要素であり、観光客、観光対象、観光事業者とともに、観光理論を構成する支柱となるもの
森重	観光に利用するために、人びとの働きかけの対象になり得る地域の要素
岡本	観光者の要求や期待とは無関係に存在しているものの、実際に人々を観光行動に駆り立てる原因になっている事柄のこと
公益財団法人 日本交通公社	人々の観光活動のために利用可能なものであり、観光活動がもたらす感動の源泉となり得るもの、人々を誘引する源泉となり得るもののうち、観光活動の対象として認識されているもの

筆者作成

2. 2. 観光資源の分類

観光資源の分類については、分類の範囲の大きさにより研究が分かれる。大枠での分類については、高橋が既存研究を元にその傾向について検証している⁵。観光資源の分類は、観光対象についての捉え方によっても考え方は分かれるが、観光対象は観光資源と観光施設から構成されるという考え方と、観光対象に観光施設を含めないという考え方のいずれにおいても、観光資源を自然文化資源と人文観光資源、複合型観光資源に3分類する考え方と、自然観光資源と人文観光資源の2つに分類する考え方が多いということを高橋は見出している。

そして、観光資源を細分化した既存研究の検証については上田が詳しい⁶。上田は井上を観光資源論の始まりとして取り上げ、そこでおこなわれた観光資源の分類について示している⁷。さらにその次の研究として、国際観光局の『観光資源資料』に掲載されている2,739件の観光資源を挙げている⁸。そして日本交通公社の『観光資源台帳』についても取り上げ、版ごとの観光資源の分類の変化についても検証を行っている。また、井上並びに国際観光局と日本交通公社の『観光資源台帳』とを比較して、観光資源の分類や内容に大きな違いがあることを明らかにしている。

上記のように観光資源の先行研究は数多く存在し、また高橋や上田のように既存研究に対する検証もおこなわれている。しかしながら、観光ルートで実際に採用されている観光資源について、観光資源の分類を元にその内容の検証をおこなっている先行研究は見つけることができなかった。この点で本研究は意義があると考ええる。

3. 観光資源の分類方法

3. 1. 本研究で使用する観光資源の分類

近年の研究で観光資源を細分化して分類をおこなっているものは溝尾と日本交通公社がある。溝尾は2001年ならびに2008年に独自の観光資源についての分類を行っている（表2、表3参照）。そして日本交通公社は『観光資源台帳』として1968年に観光資源の分類と一覧を作成し、その後2014年ならびに2017年と、複数回にわたって内容の検討がなされ、分類も含めて更新されている。中崎が「観光資源は多種多様であるとともに社会経済の変化にともなって流動的となるため、その全体像を明確に示すことはできない⁹」としているように、観光資源は変化していくものであり、その分類についても同様に変化していく。そこで本稿ではより多くの改定がなされていることと、最新の改定期と観光ルートが策定された時期とが近いことから、日本交通公社の分類方法に従って、広域観光周遊ルートで採用されている観光資源の内容を検証していくこととする¹⁰。日本交通公社の分類は、上田が2014年版としているものと同様であるため、以降は2014年版と記することとする。

表2 溝尾(2001)による観光資源の分類

自然資源	人文資源Ⅰ	人文資源Ⅱ	複合資源
1. 山岳	1. 史跡	1. 橋	1. 歴史景観
2. 高原	2. 寺社	2. 近代公園	2. 田園景観
3. 原野	3. 城跡・城郭	3. 建造物	3. 郷土景観
4. 湿原	4. 庭園・公園	4. 動物園・植物園	4. 都市景観
5. 湖沼	5. 年中行事	5. 博物館・美術館	
6. 峡谷	6. 碑・像	6. 水族館	
7. 滝			
8. 河川			
9. 海岸			
10. 岬			
11. 島嶼			
12. 岩石・洞窟			
13. 動物・植物			
14. 自然現象			

出所 溝尾良隆(2001)「観光資源と観光地」『観光学入門』岡本伸之編,有斐閣,p.121

表3 溝尾(2008)による観光資源の分類

自然資源	人文資源
1. 山岳 2. 高原 3. 原野	1. 史跡 2. 寺社 3. 城跡・城郭
4. 湿原 5. 湖沼 6. 峡谷	4. 庭園・公園 5. 年中行事 6. 碑・像
7. 滝 8. 河川 9. 海岸	7. 建造物 8. 動物園・植物園
10. 岬 11. 島嶼 12. 岩石・洞窟	9. 博物館・美術館 10. 水族館
13. 動物・植物 14. 自然現象	11. 田園景観 12. 郷土景観 13. 都市景観

出所 溝尾良隆(2008)「観光資源論－観光対象と資源分類に関する研究」『城西国際大学紀要』第16巻6号,城西国際大学紀要委員会,pp.1-13

3. 2. 『観光資源台帳』の分類の変化

観光ルートの内容について検証をおこなう前に『観光資源台帳』の分類の変化について確認する。『観光資源台帳』は日本交通公社が日本の観光資源について分類、評価をおこなっているものである。この観光資源の分類について、1974年版、1999年版、2014年版の項目の一覧表を作成して比較を行っているのが上田である(表4参照)。

表4 『観光資源台帳』の観光資源分類

	1974 年版分類	1999 年版分類	2014 年版分類
自然資源	1. 山岳	1. 山岳	1. 山岳
	2. 高原	2. 高原	2. 高原・湿原・原野
	3. 原野	3. 原野	
	4. 湿原	4. 湿原	
	5. 湖沼	5. 湖沼	3. 湖沼
	6. 峡谷	6. 峡谷	4. 河川・峡谷
	7. 滝	7. 滝	5. 滝
	8. 河川	8. 河川	
	9. 海岸	9. 海岸	6. 海岸・岬
	10. 岬	10. 岬	
	11. 島嶼	11. 島	
	12. 岩石	12. 岩石・洞窟	7. 岩石・洞窟
	13. 動物	13. 動物	8. 動物
	14. 植物	14. 植物	9. 植物
	15. 自然現象	15. 自然現象	10. 自然現象
人文資源	I 1. 史跡	1. 史跡	11. 史跡
	2. 社寺	2. 社寺	12. 神社・寺院・教会
	3. 城跡・城郭	3. 城跡・城郭	13. 城跡・城郭・宮殿
	4. 歴史景観	4. 庭園・公園	14. 集落・街
	5. 郷土景観	5. 歴史景観	15. 郷土景観
	6. 年中行事	6. 地域景観	16. 庭園・公園
	7. 碑・像	7. 年中行事	17. 建造物
	8. 庭園・公園	8. 歴史的建造物	18. 年中行事
	II 1. 橋		
	2. 近代公園		
	3. 建造物（都市建造物、産業観光施設）	9. 現代建造物	
	4. 観覧施設Ⅰ（動物園、植物園）		19. 動植物園・水族館
	5. 観覧施設Ⅱ（博物館、美術館）	10. 博物館・美術館	20. 博物館・美術館
	6. 観覧施設Ⅲ（水族館）		
			21. テーマ公園・テーマ施設
			22. 温泉
			23. 食
			24. 芸能・興行・イベント

出所 上田卓爾(2017)「新たに公開された『観光資源台帳』について：観光資源論の視点から」『大阪明浄大学観光学研究所年報』第16号，大阪明浄大学観光学研究所,p.20

各年度の項目数は、1974年版は自然資源が15、人文資源Ⅰが8、人文資源Ⅱが6の29項目、1999年版は自然資源が15、人文資源が10の25項目、2014年版は自然資源が10、人文資源が14の24項目となっており、更新をするたびに項目が集約されていることが分かる。また、1974年版と1999年版は自然資源と人文資源、それぞれに通番が割り当てられていたが、2014年版では、自然資源と人文資源という大きな分類は残されているものの、観光資源全体として大分類に関わらず通し番号が付与されている。これは自然資源と人文資源という大きな分類についての捉え方が変化してきていることの表れであると推察する。

次に個別の項目の変更点を確認していく。1974年版から1999年版への変更点としては、まず大分類の変更有る。1974年版では人文資源はⅠとⅡに分かれているが、1999年版ではこれらは分類されることなく、人文資源としてまとめられるようになった。そして詳細な分類の変更点としては、1999年版では碑・像が分類対象から外れている。これは1999年版では評

評価対象となっていないのか、それとも1974年版から存在する史跡などの別の項目に分類されるようになったのかは不明である。さらに1999年版では動物園、植物園、水族館が分類から消えているが、こちらは2014年版で動植物園・水族館として復活している。

1999年版から2014年版への変更点は多い。全体的な項目数は25項目から24項目とそれほど差異はないが、自然資源が15項目から10項目へ、人文資源が10項目から14項目へと変更されている。その傾向としては、1999年版の項目を集約したものと新たに項目が追加されたものに分けられる。この変更点については中野・五木田がその内容について記している¹¹。

まず自然資源については、2.高原、3.原野、4.湿原が2.高原・湿原・原野に集約されている。さらに、6.峡谷、8.河川は4.河川・峡谷に、9.海岸、10.岬は6.海岸・岬に集約されている。11.島はこれまで観光資源ではなく、観光地としての評価がなされていたとして、2014年版では対象から外れている。観光地は複数の観光資源や観光施設が集積して構成されているものとされ、単独の観光資源としてはみなされなくなった。そして、2014年版の評価対象として取り上げるのは観光地ではなく観光資源であるため、評価対象外となったのである。島自体は観光資源として評価されることはなくなったが、島内に存在する観光資源については、それぞれ個別に観光資源として評価対象となっている。島そのものが観光資源と言える場所もあると考えられるが、観光資源の考え方についての検討は今後の課題としたい。

また、評価対象の考え方として、視点場は評価対象とならないとされている。これは、人々を誘引する対象となるのは、視点場ではなく、視対象であるためとされている。そのため峠や展望台などは対象から除外されている。

次に人文資源について。まず2.社寺が12.神社・寺院・教会とされている。3.城跡・城郭についても13.城跡・城郭・宮殿と対象範囲が広げられている。また、8.歴史的建造物、9.現代建造物は17.建造物としてまとめられている。そして、5.歴史景観、6.地域景観については、14.集落・街と15.郷土景観とに整理されている。

新たに観光資源の分類として加えられたのが、21.テーマ公園・テーマ施設、22.温泉、23.食、24.芸能・興行・イベントの4項目である。これは観光活動の多様化が理由とされている。まず21.テーマ公園・テーマ施設については、これまでは人の手で作りだせるものであるとして評価対象とされていなかったが、開業から一定程度の年数が経過しているもの、普遍的または特徴的なテーマ性を有し、それらが統一的に表現されているもの、それを深く感じることができるものについては、評価対象とするとされている。次に22.温泉と23.食については、これまでの評価対象が「見る」もののみであったため、項目とはなされていなかった。しかしながら、「入浴する」「食べる」などの体験は、その場所でしか果たすことのできない、地域性に触れる観光行為であり、「温泉」「食」は誘引力を発揮する観光資源であることから、評価対象に加えたとある。そして24.芸能・興行・イベントについても、感動の源泉となる観光資源であることから、評価対象に加えたとされている。

3. 3. 『観光資源台帳』による観光資源の分類とランク付け

2014年版の『観光資源台帳』においては、観光資源は24種類に分類がなされている（表4参照）。また、個別の観光資源はその特徴に応じて、ランク付けがなされている（表5参照）。

表5 観光資源台帳による観光資源ランクの定義

S：特A級資源	わが国を代表する資源であり、世界に誇示しうるもの。日本人の誇り、日本のアイデンティティを強く示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの。
A：A級資源	特A級に準じ、わが国を代表する資源であり、日本人の誇り、日本のアイデンティティを示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの。
B：特別地域観光資源	その都道府県や市町村を代表する資源であり、その土地のアイデンティティを示すもの。その土地を訪れた際にはぜひ立ち寄りたいもの。また、その土地に住んでいる方であれば一度は訪れたいもの。

出所 財団法人日本交通公社(2017)「観光資源台帳」

<https://www.jtb.or.jp/research/theme/resource/tourism-resource-list/>（2019年9月22日アクセス）

2017年7月時点で『観光資源台帳』に登録されている観光資源は2786箇所となっているが、そのなかの観光資源ランクごとの観光資源の数は、特A級資源55カ所、A級資源396箇所、特別地域観光資源2335箇所となっている。特A級資源は全体の2%に満たない数しかなく、この評価を得ている観光資源の希少性が理解できる。

観光資源の評価基準については記載を割愛するが、多くの観光資源に共通する評価の視点として「容姿」「地域とのつながり」「日本らしさ、地域とのつながり」が存在し、その内容は下記の通りとなっている¹²。

- ・容姿：その資源の姿・形が美しいもの、雄大なもの、大きく迫力のあるものは評価が高い
- ・地域とのつながり：その土地の自然や文化に由来する事柄が顕著に見られ、深く感じることができるものは、評価が高い
- ・日本らしさ、地域とのつながり：我が国またはその土地の自然や歴史、文化に由来する事柄が顕著に見られ、深く感じることができるものは、評価が高い

観光ルート上の観光資源を検証する際、観光資源の評価の高さがどのように関係するかという点で、この指標は重要となる。

4. 『観光資源台帳』を元にした広域観光周遊ルート上の観光資源の分類

4. 1. 広域観光周遊ルートにおける観光資源の数と評価

本研究では、広域観光周遊ルートで設定されている観光ルートに含まれている観光資源の分類について、『観光資源台帳』を元に検証をおこなった。広域観光周遊ルートは11地域31

コースに及び、立ち寄り先とされている観光資源は228箇所存在する。この228箇所全てについて観光資源台帳の観光資源ランクをあてはめたのが、文末にある表6-1～表6-11である。これらの228箇所の観光資源のなかには、複数の観光コースで採用されているものが存在する。これらの重複している観光資源を除くと、立ち寄り先として選定されている観光資源は213箇所となった。

この213箇所の観光資源と『観光資源台帳』に掲載されている観光資源とを照合し、『観光資源台帳』による24種類の資源の種別ごとの箇所数と、その評価に応じてS、A、Bとそれ以外としてランク付けされている観光資源ランクの評価結果を一覧にした（表7参照）。

表7 広域観光周遊ルートにおける観光資源の種別毎箇所数と観光資源ランク

	種別	箇所数	S	A	B	-		種別	箇所数	S	A	B	-
自然資源	1.山岳	4	0	2	2	0	人文資源	11.史跡	9	2	0	5	2
	2.高原・湿原・原野	5	0	2	1	2		12.神社・寺院・教会	22	9	6	3	4
	3.湖沼	5	0	4	0	1		13.城跡・城郭・宮殿	9	1	6	1	1
	4.河川・峡谷	8	2	3	3	0		14.集落・街	13	0	5	4	4
	5.滝	2	0	1	0	1		15.郷土景観	9	1	3	3	2
	6.海岸・岬	14	1	6	2	5		16.庭園・公園	13	0	2	3	8
	7.岩石・洞窟	4	0	0	1	3		17.建造物	10	0	3	3	4
	8.動物	3	0	1	0	2		18.年中行事（祭り・伝統行事）	2	0	0	1	1
	9.植物	3	0	2	0	1		19.動植物園・水族館	3	0	2	1	0
	10.自然現象	6	1	2	0	3		20.博物館・美術館	8	0	1	1	6
自然資源 計		54	4	23	9	18		21.テーマ公園・テーマ施設	4	0	0	3	1
								22.温泉	11	1	4	3	3
								23.食	12	0	1	4	7
								24.芸能・興行・イベント	2	0	0	0	2
								人文資源 計	127	14	33	35	45
								分類不能	32				
								合計	213	18	56	44	63

S・A・Bの基準は『観光資源台帳』2019年時点のものによる

出所 観光庁・広域観光周遊ルートについて

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/kouikikankou.html>（2019年9月22日アクセス）

財団法人日本交通公社(2017)「観光資源台帳」<https://www.jtb.or.jp/research/theme/resource/tourism-resource-list/>（2019年9月22日アクセス）

を元に筆者作成

観光資源の大枠での分類として使用されている自然資源と人文資源の数については、自然資源が54箇所、人文資源が127箇所となり、人文資源の数が多い事が確認できた。観光資源台帳に存在する観光資源の構成比は自然資源29%に対し、人文資源71%であるから、その比率は近いものになっていると言えよう。またそれ以外に、観光資源台帳の分類にあてはめることが困難な、分類することができない観光資源が32箇所存在した。

観光資源は、自然資源の1.山岳から人文資源の24.芸能・興行・イベントまでの24種別に分類されているが、全ての種別が観光ルート上の観光資源対象として採択されていることが確認できた。しかしながら選択されている数については、自然資源と人文資源の数の違いにも表れているように、種別による差が生じている。

全体を通じて一番多かったのが12.神社・寺院・教会の22箇所、SやAに認定されている観光資源も15箇所と最大になっている。その次に多かったのが、6.海岸・岬の14箇所であり、SやAに認定されている観光資源は7箇所となっている。

選択されている箇所数を上位から見ると、上位10件の中に自然資源は2位の6.海岸・岬と10位の4.河川・渓谷となっており、他は全て人文資源となっている（表8参照）。しかし、S・Aに評価されている観光資源のみを対象とした場合は、種別としては16.庭園・公園の1種類が増えたのみではあるが、多くの自然資源が上位にあらわれることがわかった（表9参照）。選択されている観光資源において、S・Aに評価されているものの比率は、自然資源が50%、人文資源が37%と、自然資源の比率が高いため、このような結果となったことが考えられる。

表8 観光資源種別観光箇所数（全評価対象）

		種別	箇所数
1	人文資源	12.神社・寺院・教会	21
2	自然資源	6.海岸・岬	15
3	人文資源	14.集落・街	14
4	人文資源	16.庭園・公園	14
5	人文資源	23.食	11
6	人文資源	11.史跡	10
7	人文資源	17.建造物	10
8	人文資源	22.温泉	10
9	人文資源	13.城跡・城郭・宮殿	9
10	自然資源	4.河川・峡谷	8

表9 観光資源種別観光箇所数（S・Aのみ対象）

		種別	箇所数
1	人文資源	12.神社・寺院・教会	14
2	自然資源	6.海岸・岬	8
3	人文資源	13.城跡・城郭・宮殿	7
4	人文資源	14.集落・街	5
5	自然資源	4.河川・峡谷	5
6	人文資源	22.温泉	4
7	自然資源	3.湖沼	4
8	人文資源	16.庭園・公園	3
9	人文資源	11.史跡	3
10	人文資源	17.建造物	3

分類不能とした観光資源32箇所の傾向としては、視対象としての観光地ではなく、体験するものが多くみられた。例としては海女小屋体験、紙すき体験、金箔工芸、ウニむき体験、そば打ち体験、シーカヤック、カーリング体験、三陸鉄道などが挙げられる。つまり、食に関する体験、工芸に関する体験、スポーツ、乗り物などの分野が現在の観光資源台帳では分類をすることができなかったということになる。中野・五木田では、「観光活動の多様化を受け、「見ること」に加え、「居ること」「体験すること」も評価対象とした」¹³とあり、実際の項目として体験をする観光資源が分類できないという点は疑問ではあるが、分類そのものについて検討することについては別の機会とする。また、島については評価対象外ということであるため、山岳として評価されている桜島以外は分類不能としている。

4. 2. 個別の広域観光周遊ルートにおける観光資源の評価と種類と個数

前項において、広域観光周遊ルート全体での観光資源の数や傾向を把握したが、個々の広域観光周遊ルートで対象となっている観光資源についても検証をおこなった（表6-1～表6-11

参照)。

その結果、31コース全てでB以上の評価がなされている観光資源が含まれ、29コースでA評価以上の観光資源が含まれていることが明らかになった。このことにより観光ルートには評価の高い観光資源が必ず含まれていることが確認できた。

また、コースごとの観光資源については、同一コース内に同じ種別の観光資源が含まれているものも多く存在した。これは観光コースにテーマ性を持たせていることが理由であると考えられる。同一コースで3箇所以上同じ種別の観光資源に立ち寄るとされているものは7コース存在した。種別を挙げると、6.海岸・岬、11.史跡、12.神社・寺院・教会、15.郷土景観、16.庭園・公園、20.博物館・美術館、23.食であった。この7コース7種別は全て異なるコースであり、日本全国を対象としているにも関わらず、重複することがないという点は興味深い。

1コースあたりの平均観光資源数を調べると7.4箇所となった。分類不能の観光資源もあるため正確な数を算出することはできないが、5～6種別の観光資源がそれぞれのコースに含まれていた。これは観光客へ様々な観光資源の要素を提供することで、その満足度を高めようとしていることが考えられる。

同一観光コース内において、同一種別の観光資源の重複が多く見られたのが沖縄のコースである。沖縄を対象としたコースは3つ存在するが、いずれもが同一コース内に3箇所以上同じ種別の観光資源に立ち寄りをしている。対象となる観光資源は6.海岸・岬、11.史跡、23.食と、それぞれ性質が異なるものであるため、意図的にコースごとに振り分けをしていることが考えられる。

5. 結論とまとめ

本稿では、観光ルート上に存在する観光資源について、どのような特徴があるかの検証をおこなった。その前段として、まず先行研究から観光資源の分類について確認した。先行研究によれば、観光資源は自然観光資源と人文観光資源の2つに分類する考え方が多く、筆者もこの考え方を採用したいと考える。また、その分類についても研究がなされており、その都度新たな定義や提案がなされているが、社会の変化に伴い、観光そのものが変化していく中では、観光資源自体も当然変わりゆくものであるため、その分類が変化するのも当然であると考えられる。

観光ルート上に存在する観光資源の検証については、観光庁が公表している「広域観光周遊ルート」について、日本交通公社が作成している『観光資源台帳』を元に、観光ルートごとに使用されている観光資源とその評価について確認した。

その結果、観光資源の大枠での分類として使用されている自然資源と人文資源の数については、自然資源が54箇所、人文資源が127箇所となり、人文資源の数が多い事がわかった。

この構成比は『観光資源台帳』の構成に近いことが確認できた。

またどちらにも分類することができない観光資源が32箇所存在することも明らかになった。これらの観光資源の傾向としては、観光地ではなく体験をするという内容が多くみられた。分類不能であるからと言って観光資源ではないという事ではないため、観光資源の分類や考え方について改めて今後検討をおこなっていく必要があると考えられる。

コースごとの観光資源については、31コース全てにおいてB以上の評価がされている観光資源が含まれ、29コースでA評価以上の観光資源が含まれていることが分かった。これにより、観光ルートを成立させるためには、評価の高い観光資源を入れることが必要であることが確認できた。

筆者は他の研究でインスタ・マーチャンダイジング（以下ISM）と観光ルートとの関連性について検証を重ねている¹⁴が、評価が高い観光資源が観光ルートに必ず入っているという点は、ISMにおけるパワーカテゴリーと類似性があると考えられる¹⁵。また、観光コースによっては、同一種別の観光資源が同一コースに複数存在しているものがあり、これによって観光コースの特徴付けをおこなっているものがあつたが、これはISMにおいて取扱品種をグルーピングすることにより品揃えの充実感に繋げること同様であると考えられ、この点でもISMとの類似性があると考えられる。これらの点についても今後検証を重ねていきたい。

観光コースがもつ観光資源の評価の高さと観光コース自体の評価についての関連性や観光ルート策定による経済効果など、定量的な検証についてはおこなうことができていないため、この部分については今後の課題としたい。また、観光資源同士の組み合わせについての検証や、観光資源を繋ぐ交通などの移動手段についても検証する必要があると考える。

表 6-1 広域観光周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

A アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし 北・海・道 Hokkaido - Route to Asian Natural Treasures

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
1	A	①. Explore the Wonderland in summer	ファーム富田	-	16.庭園・公園
2			四季彩の丘	-	16.庭園・公園
3			十勝千年の森	B	16.庭園・公園
4			芝桜	-	16.庭園・公園
5			メルヘンの丘	-	16.庭園・公園
6			釧路川カヌー体験	-	
7			屈斜路湖	A	3.湖沼
8			ホエールウォッチング	-	8.動物
9	A	②. Explore the Wonderland in winter	旭山動物園	A	19.動植物園・水族館
10			層雲峡温泉氷瀑まつり	-	18.年中行事（祭り・伝統行事）
11			富良野スキー場	-	
12			然別湖コタン	-	24.芸能・興行・イベント
13			フロストフラワー	-	10.自然現象
14			SL 冬の湿原号	-	
15			ガリンコ号	-	
16			流氷ウォーク	A	10.自然現象

表 6-2 広域観光周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

B 日本の奥の院・東北探訪ルート “Exploration to the Deep North of Japan”

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
17	B	①. 四季が織りなす東北の宝コース	蔵王温泉	A	22.温泉
18			山寺	A	12.神社・寺院・教会
19			松島	A	6.海岸・岬
20			平泉	S	12.神社・寺院・教会
21			猊鼻溪舟下り	B	4.河川・峡谷
22			角館	A	14.集落・街
23			白神山地	A	9.植物
24			羽黒山	B	14.集落・街
25	B	②. 三陸の恵みと復興コース	松島	A	6.海岸・岬
26			南三陸志津川温泉	-	22.温泉
27			南三陸キラキラ井	-	23.食
28			気仙沼漁港	-	14.集落・街
29			平泉	S	12.神社・寺院・教会
30			遠野ふるさと村	B	21.テーマ公園・テーマ施設
31			浄土ヶ浜	A	6.海岸・岬
32			三陸鉄道北リアス線	-	
33	B	③. 日本海の美と伝統コース	奥入瀬溪流	S	4.河川・峡谷
34			弘前洋館めぐり	B	17.建造物
35			リゾートしらかみ	-	
36			潮瀬崎のゴジラ岩	-	7.岩石・洞窟
37			相馬楼	-	17.建造物
38			加茂水族館	B	19.動植物園・水族館
39			村上の鮭文化	B	23.食

表 6-3 広域観光周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

C 昇龍道 SHORYUDO

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
40	C	①. Dragon コース《伝承空間への誘い》	犬山祭	B	18.年中行事（祭り・伝統行事）
41			大須商店街	-	14.集落・街
42			下呂温泉	-	22.温泉
43			和倉温泉	B	22.温泉
44			飛騨酒蔵	-	17.建造物
45			一位一刀彫	-	
46			関鍛冶伝承館	B	15.郷土景観
47			金箔工芸	-	
48	C	②. Nostalgic コース《「日本の心・ふるさと」お伊勢参りと世界遺産を巡る旅》	松本城	A	13.城跡・城郭・宮殿
49			志賀高原	B	2.高原・湿原・原野
50			伊勢神宮	S	12.神社・寺院・教会
51			海女小屋体験	-	
52			高山	A	14.集落・街
53			妻籠宿	B	15.郷土景観
54			五箇山	A	15.郷土景観
55			白川郷	S	15.郷土景観
56			熊野古道	A	15.郷土景観
57	C	③. Great Nature コース《大自然の醍醐味アルペンと古代探訪の旅》	福井県立恐竜博物館	B	20.博物館・美術館
58			東尋坊	B	6.海岸・岬
59			琵琶湖	A	3.湖沼
60			養老の滝	-	5.滝
61			雪の大谷	-	10.自然現象
62			黒部溪谷	S	4.河川・峡谷
63			黒部ダム	A	17.建造物
64			ラフティング体験	-	
65	C	④. Ukiyo-e コース《サムライ文化・伝統技術リアル体験》	旧東海道宿場町	-	15.郷土景観
66			東海道広重美術館	-	20.博物館・美術館
67			関ヶ原古戦場	B	11.史跡
68			岡崎城	B	12.神社・寺院・教会
69			名古屋城	A	13.城跡・城郭・宮殿
70			リニア・鉄道館	-	20.博物館・美術館
71			トヨタ自動車工場・トヨタ館	-	20.博物館・美術館

表 6-4 広域観光周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

D 美の伝説 THE FLOWER OF JAPAN, KANSAI

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
72	D	①. KANSAI～世界遺産と絶景 伝統と自然の美の競演 ～A Journey into the Kansai Legacies & Mother Nature	清水寺	S	12.神社・寺院・教会
73			彦根城	A	13.城跡・城郭・宮殿
74			三方五湖	A	3.湖沼
75			天橋立	A	6.海岸・岬
76			鳥取砂丘	A	6.海岸・岬
77			鳴門渦潮	A	10.自然現象
78			姫路城	S	13.城跡・城郭・宮殿
79			神戸夜景	B	15.郷土景観
80	D	②. KANSAI ～日本の精神文化の聖地 美の伝承～ A Journey into the Kansai Spiritual & Culture places	高野山	S	12.神社・寺院・教会
81			那智の滝	A	5.滝
82			橋杭岩	B	7.岩石・洞窟
83			東大寺	S	12.神社・寺院・教会
84			法隆寺	S	12.神社・寺院・教会
85			石舞台古墳	B	11.史跡
86			大阪城	A	13.城跡・城郭・宮殿
87			仁徳天皇陵古墳	S	11.史跡

表 6-5 広域観光周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

E セとうち・海の道 The Inland Sea, SETOUCHI

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
88	E	①. 新ゴールデンルート～新たな西 日本発見の旅	多島美	S	6.海岸・岬
89			姫路城	S	13.城跡・城郭・宮殿
90			栗林公園	A	16.庭園・公園
91			倉敷美観地区	A	14.集落・街
92			厳島神社	S	12.神社・寺院・教会
93			錦帯橋	A	17.建造物
94			しまなみ海道	A	17.建造物
95	E	②. 歴史と芸術に出会う美のルート	多島美	S	6.海岸・岬
96			厳島神社	S	12.神社・寺院・教会
97			栗林公園	A	16.庭園・公園
98			大山祇神社	B	12.神社・寺院・教会
99	E	③. 空と島と海に溶け込むサイクリ ングルート	多島美	S	6.海岸・岬
100			オリーブ公園・サイクリング	-	16.庭園・公園
101			あわじ花さじき・サイクリング	-	16.庭園・公園
102			しまなみ海道	A	17.建造物
103			瀬戸内の食	-	23.食

表 6-6 広域観光周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

F スピリチュアルな島 ～四国遍路～Spiritual Island～SHIKOKU HENRO～

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
104	F	①. 四国スピリチュアル・コース	第一番札所霊山寺	-	12.神社・寺院・教会
105			小豆島八十八カ所霊場	-	12.神社・寺院・教会
106			さぬきうどん作り体験	A	23.食
107			藍染体験	-	
108			かつおのタタキ	B	23.食
109			足摺岬	A	6.海岸・岬
110			外泊石垣の里	B	14.集落・街
111			道後温泉本館	A	22.温泉
112	F	②. 四国鉄道クラシカル・コース	丸亀城	B	13.城跡・城郭・宮殿
113			金刀比羅宮	A	12.神社・寺院・教会
114			かずら橋	B	17.建造物
115			祖谷そば打ち体験	-	
116			紙すき体験	-	
117			四万十川遊覧船	A	4.河川・峡谷
118			鯛めし	B	23.食
119			砥部焼体験	-	
120	F	③. 四国大自然ドライブ・コース	鳴門うず潮	A	10.自然現象
121			日和佐うみがめ博物館	-	20.博物館・美術館
122			御厨人窟	-	
123			モネの庭	-	16.庭園・公園
124			しまなみ海道	A	17.建造物
125			マイントピア別子	B	21.テーマ公園・テーマ施設
126			寒霞渓	B	4.河川・峡谷
127			エンジェルロード	-	6.海岸・岬

表 6-7 広域観光周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

G 温泉アイランド九州 広域観光周遊ルート Extensive sightseeing route of 'Onsen Island' Kyushu

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
128	G	①. 鉄道・バスで廻る九州の魅力満喫コース	嬉野温泉	-	22.温泉
129			熊本城	A	13.城跡・城郭・宮殿
130			黒豚しゃぶしゃぶ	B	23.食
131			クルスの海	-	6.海岸・岬
132			地獄めぐり	S	10.自然現象
133			太宰府天満宮	A	12.神社・寺院・教会
134			天神地下街	-	14.集落・街
135	G	②. 九州の歴史・自然をレンタカーで廻るコース	太宰府天満宮	A	12.神社・寺院・教会
136			有田焼体験	A	15.郷土景観
137			平和公園	A	20.博物館・美術館
138			熊本城	A	13.城跡・城郭・宮殿
139			えびの高原	-	2.高原・湿原・原野
140			霧島神宮	B	12.神社・寺院・教会
141			杵築市城下町	B	14.集落・街
142	G	③. 火山の島・九州一周コース	桜島	A	1.山岳
143			えびの高原	-	2.高原・湿原・原野
144			高千穂峡	A	4.河川・峡谷
145			地獄めぐり	S	10.自然現象
146			阿蘇草千里	A	2.高原・湿原・原野
147			雲仙温泉	A	22.温泉
148			祐徳稲荷神社	A	12.神社・寺院・教会

表 6-8 広域観光周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

H 日本のてっぺん。きた北海道ルート。 Amazing Northernmost Japan, Hokkaido route

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
149	H	①. The Top of Japan - 夏	オトンルイ風車群	-	17.建造物
150			サロベツ原生花園	A	2.高原・湿原・原野
151			宗谷丘陵	-	2.高原・湿原・原野
152			上野ファーム	B	16.庭園・公園
153	H	②. The Top of Japan - 冬	旭山動物園ペンギンパレード	A	19.動植物園・水族館
154			カーリング体験	-	
155			スキー・スノーボード	-	
156			サンピラー鑑賞	-	10.自然現象
157	H	③. The Top of Japan - 離島めぐり	利尻島	-	
158			礼文島	-	
159			天売島	-	
160			焼尻島	-	
161			釣り体験	-	
162			シーカヤック体験	-	
163			礼文フットパス	A	9.植物
164			ウニむき体験	-	
165			バードウォッチング	-	8.動物

表 6-9 域観光周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

I 広域関東周遊ルート「東京圏大回廊」 The Wider Kanto Route “Around Tokyo”

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
166	I	①. 自然大回廊（太平洋）コース	五色沼湖沼群	A	3.湖沼
167			スバリゾートハワイアンズ	B	21.テーマ公園・テーマ施設
168			国営ひたち海浜公園	B	16.庭園・公園
169			偕楽園	A	16.庭園・公園
170			大洗磯前神社	-	12.神社・寺院・教会
171			歴史的町並みと観光遊覧船	B	14.集落・街
172			鋸山地獄のぞき	B	1.山岳
173			日光杉並木	S	11.史跡
174	I	②. 自然大回廊（日本海）コース	昇仙峡	A	4.河川・峡谷
175			上高地	B	4.河川・峡谷
176			糸魚川海岸	-	6.海岸・岬
177			いもり池	-	3.湖沼
178			たらい舟	-	
179			レストランかまくら村	-	24.芸能・興行・イベント
180			スノーモンキー	A	8.動物
181	I	③. 江戸文化回廊コース	善光寺	A	12.神社・寺院・教会
182			草津温泉	S	22.温泉
183			伊香保温泉	A	22.温泉
184			桐生の着物着付け体験	-	
185			日光東照宮唐門	S	12.神社・寺院・教会
186			益子焼陶芸体験	-	
187			蔵造りの町並み(川越)	A	14.集落・街

表 6-10 光周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

J 緑（えん）の道～山陰～ Route Romantique San'in

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
188	J	①. 日本の原風景（世界遺産・日本遺産見聞録）	太鼓谷稲荷神社	-	12.神社・寺院・教会
189			石見銀山	B	11.史跡
190			出雲大社	S	12.神社・寺院・教会
191			和菓子と抹茶	-	23.食
192			たたら製鉄	B	11.史跡
193			和傘づくり体験	-	
194			大山	A	1.山岳
195			三朝温泉	B	22.温泉
196	J	②. ジオパーク&ナショナルパーク・アクティビティ	三瓶山	B	1.山岳
197			ローソク島	-	7.岩石・洞窟
198			温泉(三朝・松江)	B	22.温泉
199			シャワークライミング	-	
200			大山牛乳	-	23.食
201			ダウンヒルサイクル	-	
202			サンドボード	-	
203			シーカヤック	-	

表 6-11 周遊ルートにおけるルートごとの観光資源の分類

K Be.Okinawa 琉球列島周遊ルート “Visit Our Exciting Ryukyu Islands in The Pacific Ocean”

No.	地域	コース	観光資源	ランク	種別
204	K	①. Gateway to Okinawa Lifestyle& Culture (人々の暮らしと琉球文化)	沖縄県立博物館・美術館	-	20.博物館・美術館
205			壺屋焼体験	-	
206			海ぶどう	-	23.食
207			チュラフクギ	-	15.郷土景観
208			久米島紬の里ユイマール館	-	20.博物館・美術館
209			泡盛	-	23.食
210			ずうーずうーばるんかい	-	23.食
211			伊良部大橋	B	17.建造物
212			那覇まちまーい	-	14.集落・街
213	K	②. Secrets of Okinawa History (沖縄の歴史と琉球王国の誕生秘話)	斎場御嶽	A	12.神社・寺院・教会
214			尚門王御庭公園	-	16.庭園・公園
215			クマヤ洞窟	-	7.岩石・洞窟
216			宮良殿内	-	13.城跡・城郭・宮殿
217			唐人墓	-	11.史跡
218			張水御嶽	-	11.史跡
219			首里城	A	13.城跡・城郭・宮殿
220			玉陵	B	11.史跡
221	K	③. Wild Adventure of Okinawa Archipelago (五感で感じる沖縄の自然)	古座間味ビーチ	-	6.海岸・岬
222			ニシ浜ビーチ	B	6.海岸・岬
223			阿波連ビーチ	-	6.海岸・岬
224			川平湾	A	6.海岸・岬
225			石垣やいま村	-	21.テーマ公園・テーマ施設
226			重要伝統的建造物群保存地区(竹富島)	A	14.集落・街
227			西表島のマングローブ群	-	9.植物
228			海底遺跡	-	17.建造物

表 6-1～6-11 出所 観光庁・広域観光周遊ルートについて

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/kouikikankou.html> (2019 年 9 月 22 日アクセス)

 財団法人日本交通公社(2017)「観光資源台帳」<https://www.jtb.or.jp/research/theme/resource/tourism-resource-list/> (2019 年 9 月 22 日アクセス)

を元に筆者作成

参考文献

- 井上萬壽蔵(1936)「観光資源論序説」『国際観光』4巻2号・3号,財団法人国際観光協會
- 上田卓爾(2017)「新たに公開された『観光資源台帳』について:観光資源論の視点から」『大阪明浄大学観光学研究所年報』第16号,大阪明浄大学観光学研究所,pp.15-26.
- 尾家建生(2009)「観光資源と観光アトラクション」『大阪観光大学紀要』(9),大阪観光大学,pp.11-19.
- 岡本伸之(2001)『観光学入門』有斐閣,pp.14-15.
- 門脇茉海、吉澤清良(2017)「観光資源の評価に関する研究～“特別地域観光資源”の魅力と評価について～」,『観光文化』第234号,財団法人日本交通公社,pp.43-51.
- 観光政策審議会(1995)「今後の観光政策の基本的な方向について」答申第39号
- 国際観光局(1939)『観光資源資料』
- 須田寛(2003)『新観光資源論』交通新聞社,pp.34-38.
- 高橋光幸(2014)「観光資源の定義と分類に関する考察」『富山国際大学現代社会学部紀要』第6巻,富山国際大学,pp.109-125.
- 寺前秀一(2017)「観光資源論の再構築と観光学研究の将来」『横浜市立大学論叢.社会科学系列』第68巻2号,横浜市立大学学術研究会,pp.165-214.
- 中野文彦・五木田玲子(2014)「観光資源の今日的価値基準の研究」『観光文化』第222号,財団法人日本交通公社,pp.20-28.
- 財団法人日本交通公社(2017)「観光資源台帳」<https://www.jtb.or.jp/research/theme/resource/tourism-resource-list/> (2019年9月16日アクセス)
- 橋本俊哉(2013)『観光学全集第4巻 観光行動論』原書房,p.105.
- 羽田利久(2018)「観光行動の移動パターンの類型から考察する広域観光周遊ルートについて」東洋大学大学院紀要,pp.17-35.
- 羽田利久(2019)「インスタ・マーチャンダイジングの理論を参考として、訪日外国人旅行者向けの観光ルートを考えるための検証」『余暇ツーリズム学会誌』第6号,pp.1-10.
- 溝尾良隆(2008)「観光資源論－観光対象と資源分類に関する研究」『城西国際大学紀要』第16巻6号,城西国際大学紀要委員会,pp.1-13.
- 溝尾良隆(2009)『観光学全集第1巻 観光学の基礎』原書房,pp.43-57.
- 森重昌之(2012)「観光資源の分類の意義と資源化プロセスのマネジメントの重要性」『阪南論集.人文・自然科学編』第47巻2号,阪南大学,pp.113-124.
- 公益財団法人流通経済研究所(2016)『インスタ・マーチャンダイジング 第2版』日本経済新聞出版社

1 橋本俊哉(2013)『観光学全集第4巻 観光行動論』原書房,p.105.

- 2 羽田利久(2018)「観光行動の移動パターンの類型から考察する広域観光周遊ルートについて」東洋大学大学院紀要,pp17-35.
- 3 寺前秀一(2017)「観光資源論の再構築と観光学研究の将来」『横浜市立大学論叢. 社会科学系列』第68巻2号,横浜市立大学学術研究会,pp.165-214.
- 4 高橋光幸(2014)「観光資源の定義と分類に関する考察」『富山国際大学現代社会学部紀要』第6巻,富山国際大学,pp.109-125.
- 5 同上
- 6 上田卓爾(2017)「新たに公開された『観光資源台帳』について：観光資源論の視点から」『大阪明浄大学観光学研究年報』第16号,大阪明浄大学観光学研究,pp.15-26.
- 7 井上萬壽蔵(1936)「観光資源論序説」『国際観光』4巻2号・3号,財団法人国際観光協會
- 8 国際観光局(1939)『観光資源資料』
- 9 中崎茂(1996)「観光資源」香川眞編『現代観光研究』嵯峨野書院,p.210.
- 10 財団法人日本交通公社(2017)「観光資源台帳」
<https://www.jtb.or.jp/research/theme/resource/tourism-resource-list/> (2019年9月16日アクセス)
- 11 中野文彦・五木田玲子(2014)「観光資源の今日的価値基準の研究」『観光文化』第222号,財団法人日本交通公社,p.20.
- 12 門脇茉海、吉澤清良(2017)「観光資源の評価に関する研究～“特別地域観光資源”の魅力と評価について～」,『観光文化』第234号,財団法人日本交通公社,pp.43-51. 個別の評価基準についてもこちらに掲載がなされている
- 13 中野文彦・五木田玲子,前掲論文,pp.20-28.
- 14 羽田利久(2019)「インストア・マーチャンダイジングの理論を参考として、訪日外国人旅行者向けの観光ルートを考えるための検証」『余暇ツーリズム学会誌』第6号,pp.1-10.
- 15 公益財団法人流通経済研究所(20016)『インストア・マーチャンダイジング 第2版』日本経済新聞出版社,pp.77-78.

Reflections on the components of sightseeing routes

HADA, Toshihisa

Abstract

Categorizing and analyzing tourist itineraries are important when considering sightseeing routes. In addition to categorization, verifying the components of the itinerary is an important step in planning a tourist route.

In this paper, we will examine the components of tourism routes based on previous research. We will also verify the components of each sightseeing route, including its relevant content as well as its ratio.

Consequently, we will develop an understanding of what travelers want to see and experience on tourist routes, determine the degree to which each route has realized their expectations, and present guidelines for planning future itineraries.